よこはまの農と暮らしを結ぶ情報誌
Vol. 47

はまふうどナビ

February 2018

現在、農業は不安定な天候への対処
高齢化による労働力不足など
さまざまな問題に直面しています。
そんな中、横浜では
意欲的な生産者の皆さんが
それぞれの方法で問題解決に向けて
取り組んでいます。
今回は、横浜の農業を未来につなぐ
さまざまな取組をご紹介します。

ミライの横浜農場

農業の「見える化」◉飯田園芸

温度等の環境情報をセンサーで測定し、クラウド管理※1する「複合環境制御装置」をトマト温室に導入した飯田園芸の代表　飯田康祐さん。

康祐さんの父 智司さんは、規模拡大のため20年ほど前に栃木に進出。今では、温度、湿度、CO_2濃度、日射量、肥料濃度、水分量等をオランダ製の機器で測定・管理し、１万m^2の温室でトマトを栽培する先進的な生産者です。康祐さんも横浜の温室を任される前は、栃木の温室でデータのモニタリングや分析、販売などに関わっていました。

横浜の温室は、当初アナログの温度計と湿度計があるだけでしたが、今ではセンサーによる温度、湿度、日射量、CO_2濃度の測定に加えて、土壌水分量も康祐さんがハンディの機器でサンプリングを行っています。

「今年からデータの測定を始めたため過去のデータはありませんが、栃木の温室のデータと比較できて、新しい発見があります。また、スマートフォンにデータが送られてくるので、何かあった時にはすぐに対応ができ、精神的に楽になりました。」と康祐さん。

収量を増やすためには、不安定な天候に対して適切な対応をとり、安定的にトマトを着果※2させることが必要です。時には、摘果※3やホルモン処理※4等が必要になることも。今後は、こうした「適切な対応」を決断するための材料として、データを利用することができます。

以前は会社員をしていた康祐さん。就農した理由を「農業は閉鎖的ですが、だからこそ、伸びしろがあると感じます。また、ずっと農作業を続けてきた母を早く助けたいと思いました。」と照れくさそうに話します。

今後はデータを生かして作業を効率化し、新しい販売方法等を考える時間を増やしていきたいそうです。飯田園芸のトマトは、市場を通じてスーパー等で販売されているほか、「ハマッ子直売所都筑中川店」で購入できます。

※１…データをインターネット上に保存する使い方、サービス。
※２…果樹や野菜が実をつけること。
※３…よい果実を得たり、枝を保護したりするために、実が大きくなる前につみ取ること。
※４…開花、着果、果実の発育等に対して、これらを促進あるいは抑制するために、ホルモン剤を使うこと。

飯田さんのトマトが買える場所

ハマッ子直売所　都筑中川店
所 在 地｜横浜市都筑区中川中央１-26-６（JA横浜都筑中川支店建物内）
営業時間｜10:00～17:30　年中無休（年末年始等特定日を除く）
※数に限りがありますので、ご注意ください。
※収穫期は例年９月末ごろから６月末までですが、変更になる場合があります。

はまふうどナビのバックナンバーはウェブサイトでご覧いただけます
http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/tisantisyo/torikumi/hamafoodnavi.html

横浜みどりアップ計画

ミライの横浜農場

農福連携◉笠原農園

横浜市営地下鉄「上永谷駅」から徒歩20分程度。閑静な住宅街の中に、東京ドーム２つ分ほどの「笠原農園」の畑が広がっています。ここでは、障害がある皆さんが肉牛の飼育、野菜の栽培などの農作業に一生懸命取り組んでいます。

笠原農園の中には、公益財団法人 横浜市知的障害者育成会の「就労移行支援センター チャレンジフィールド」の事務所が設置されています。農作業に従事している障害者の皆さんは、「笠原農園」の従業員ではなく、この「チャレンジフィールド」の利用者。次の就労につなげるための訓練として、笠原農園での農作業に励んでいます。

この取組が始まったのは、30年前のこと。横浜市が障害者の農業分野での就労拡大と、農業分野の人手不足解消を図るために調査を実施し、その後、「横浜市農業就労援助事業」として開始されました。

広々とした笠原農園では肉牛の飼育や野菜の生産だけではなく、花苗やシイタケ、アスパラガスの栽培、タケノコ掘なども行っており、利用者の皆さんも幅広い農作業に取り組んでいます。ウシの餌やりと翌日の餌の調合は毎朝の日課。その後、季節に応じて、畑の草刈りや薪運び、収穫などの作業を行っていきます。

多岐に渡る農作業を指導しているのは笠原章逸（しょういち）さん。「作業をわかりやすくしてあげれば、自分たちでよく考えながらやってくれて助かってるよ。収穫後の畑の後片付けなんかは任しておいてもすごくキレイにしてくれるしね。」と話します。また、笠原さんと一緒に利用者の作業のサポートするのは、下松（くだまつ）英一郎さんら、横浜市知的障害者育成会の職員の皆さん。「ここは広いからぐるっと回るだけでも運動になるし、体力がつけられる。どこに就職するとしても体力は大事だから、有難いね。就労支援の利用期間は、２年間と決まっていて、色んな人が入れ替わりで来る大変さもあるけど、それも楽しいよ」と下松さん。

皆さんが丁寧に作業したきれいな畑の野菜たちは、笠原農園近くの「日限山デポー」で購入できます。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいて、「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」に食材の安全の確保、生態系との調和等とあわせ「障害者が主体的に携わって生産された農産物」が記載される等、農福連携の取組が注目されています！

笠原農園の野菜が買える場所

横浜みなみ生活クラブ生協 日限山デポー
所 在 地｜横浜市港南区丸山台３-43-18　パレスTSKⅡ１F）
営業時間｜10:30～19:00（日曜日定休・祝日開所）
電話番号｜045-844-2464

Vol.47

はまふうど人 登場

さまざまな立場から地産地消に
取り組む方をご紹介します

横浜野菜を世界基準の安全と確かさで

横山農園　代表者　**横山勝太**（よこやましょうた）さん

地域ぐるみで地産地消の取組が盛んな泉区の農業。その中で横山農園は昨年グローバルG.A.P.に取り組み、2017年11月20日に横浜市内で初めて認証を取得しました。今、新聞やウェブサイトなど、大きな注目を集めています。

農機具庫の整理から始めて、日常生活でも整理整頓が習慣づいたと語る横山勝太さん。「昔からのやり方に染まっていない僕らの世代の方が、取り組みやすいようです」

うちの畑がよくなるなら

グローバルG.A.P.（以下G G.A.P.）は生産者が「食の安全」「環境保全」「労働の安全」等について国際的な基準を満たした工程で栽培を行っているか、認証機関の審査員が審査する「第三者認証」です。農薬の保管状況から、畑にまいた水の量の記録に至るまで、200以上の審査項目があります。

認証取得に取り組んだ横山勝太さんは、現在27歳。

「１年前、料理人の方からG G.A.P. の話をされ、認証の仕組みを聞いて、うちの畑がよくなるのならと思って、取ることにしました」。周囲には認証を取得した事例もなく、先は見えなかったと語る横山さん。「認証審査機関の人が圃場を見にきてくれ、『この状況ならば、そこまで難しくない』と言われたので挑戦しました」。

認証審査機関に「何から始めればいいか」を尋ねると、有無をも言わさず、「まずは片付けですね」の一言。農具やロープ、コンテナ、肥料や農薬などを、リストを作って整理するところから始めました。「前々から散らかっていて、何とかしたいと思っていましたが、これが大きなきっかけになりました」。

農業大学校出身の横山さん。栽培に関しては、高校生が認証取得に取り組む記録を見て、自身が学校で学んだことと共通する部分が多いと感じました。「もともと栽培記録をノートに付けていたので、適正な水の量、種の発芽の具合などの記録は、それを必要な形に合せていきました」。

それまでは肥料や農薬、種について、在庫のことを考えずに仕入れており、使いかけの肥料や農薬が残っていましたが、量の確認はもちろん、今では肥料は正しいルートで入ったものか、種は正しい方法で製造されているかなど、袋の表示をよく見て仕入れを判断するようになりました。

そして、数多くの審査項目を一つ一つクリアして、トマトの圃場の栽培について認証を取得することができました。

多くの人に理解されてこそ真価

現在、G G.A.P. に興味のある人々からの問合せに追われている横山さん。「まだG G.A.P. はあまり知られていないので、多くの消費者から理解され、安心してもらうためにも、まず生産者を増やしたいです」。安全で丁寧に作られた農作物の価値が、消費者に伝わらないと意味がありません。

横山農園が生産する農作物は約50品目。認証を受ける品目も順々に増やしていこうとしています。

「農業はきついきついといわれますが、収穫できた時の喜びは大変さ以上にやりがいを感じます。これだけ素晴らしい職業があることを未来に伝えていきたいと思います」。

2020年を前に、食も世界基準の安全安心が求められる時。横山さんに続く生産者が増えていくかもしれません。

左：色とりどりのトマトの栽培に力を入れている横山農園。「小規模ですが、将来は人を雇ってみたい」と考える横山さん。作業のマニュアル化という視点からもG G.A.P. 認証は効果的。
右：最初に手をつけた農機具庫の整理整頓。片付けてみると、山の中から使っていない運搬車まで発見され、車2台分のスペースも生まれました。

横浜都心臨海部

よこはま地産地消サポート店(※)マップを発行しました！

普段「農」に触れる機会が少ない西区や中区。しかし、そんな都心臨海部でも、市内産農畜産物を味わえるレストランやホテルなどの飲食店はたくさんあります。そこで、都心臨海部のよこはま地産地消サポート店がわかるマップを作成しました。区役所等の公共施設や掲載店舗等で配布するほか、市のHPでもご覧いただけますので、ぜひご活用ください。

※よこはま地産地消サポート店…市内産農畜産物を扱ったメニューを提供している飲食店等。

「横浜農場」広がっています！

横浜市は、意欲的な生産者や多彩な農畜産物、美しい農景観など、身近に魅力ある「農」が存在する横浜を農場に見立て、「横浜農場」というキャッチフレーズとロゴマークでPRしています。

市内産の農畜産物やそれらの加工品、よこはま地産地消サポート店等で表示していくことで、横浜の農業全体の知名度・付加価値の向上を目指します。

こちらの横浜農場ステッカーを
よこはま地産地消サポート店の目印として
お配りしています！

発行：横浜市環境創造局農業振興課　平成30年２月23日発行　〒231-0017　横浜市中区港町１－１　TEL：045-671-2639　FAX：045-664-4425